

# 刊夕

行發日九月六  
刊休日翌日祭限日

磐城名物  
靈峰羊羹  
小川製菓  
平屋賣店

## コケモモ六月會詠草

六月四日於水戸、島田宅  
久保 田 武  
○電線の工事はまだはかどらず上草草伸びて  
風に揺るぎをり  
○縣道の工事に土をくづしたる岩崩に夏の陽は  
てりかへる

秋 谷 榮 三  
○雨後の空夕映えぬ藤棚の若葉こぼれかけて賑  
りたる  
○雨止みて庭は濡れり若くは夕陽雲の光を映  
ゆれ

山 里 草 枕  
○松の花粉湯呑の中に浮きけらし湯をふむ時  
ともしくかざる  
○南の風あたたかし水あわゆるくしなへし瓶の  
蓋を惜しむ

飯 塚 幸 穂  
○山にして相呼ぶらしき頬白の遠き所よりわか  
れてき  
○蒼鷹此の頭をかいらしらくもの思ふこ  
とおほくて過す

鹽 野 八 重 子  
○純真なる小學兒童に共産思想説き教師あり  
とよ新聞記事を見  
○とよのへる形のものごとくくちも破りた  
く思ひつづをり

中 島 武 雄  
○病める眼に照る日はいたし石ころ多き裏街ど  
ほり友とつれだつ  
○照りきびしき里街どほりにむこたらし 人は  
縁かれぬ通すがひつ

島 田 忠 夫  
○ゆふぐれて寺にきたれば霜はしらもたぐる土  
に松の葉を落つ

## 磐城歌壇のぞき

浦島 與太郎

(その四)  
次に佐川和弘氏  
○四十年の永き船業を業と一人の人である、若者は今  
なし、よきよき父老から氏の一飛路を期待して  
いむとす(詩南車廿九輯)ある丈に、みづちりやつて  
この人も高木氏と同じこと貰ひたい。  
を言ひたい。所謂、磐城に次に黒江寛氏の  
於ける歌壇、非ざる短歌學○よつと胸底にきざ  
りてあると言ひたい。だが

## 雨の朝(童謡詩)

栗原 北斗  
けしの花  
赤く咲き亂れ  
窓邊にとどく  
雨の朝  
どこかの  
子供が傘をさして  
田舎の話を  
して通る。

△京畿の佛像の私造  
を禁す(延暦二△)  
6月  
情本の出版を發賣禁  
止(天保十三△)拓務省新  
設(昭和四)

△京畿の佛像の私造  
を禁す(延暦二△)  
6月  
情本の出版を發賣禁  
止(天保十三△)拓務省新  
設(昭和四)

△京畿の佛像の私造  
を禁す(延暦二△)  
6月  
情本の出版を發賣禁  
止(天保十三△)拓務省新  
設(昭和四)

△京畿の佛像の私造  
を禁す(延暦二△)  
6月  
情本の出版を發賣禁  
止(天保十三△)拓務省新  
設(昭和四)

△京畿の佛像の私造  
を禁す(延暦二△)  
6月  
情本の出版を發賣禁  
止(天保十三△)拓務省新  
設(昭和四)

△京畿の佛像の私造  
を禁す(延暦二△)  
6月  
情本の出版を發賣禁  
止(天保十三△)拓務省新  
設(昭和四)

## 劍火無情

津屋義人作  
菅野祐作

八州の役人(四)  
思川佐太郎は、銀次と辰  
藏の歸りが遅い爲め、妻お  
菊に、松子と小萬の朝飯の  
の奴ですから土地の勝手も  
に任せしこと  
○あめつちに凍て透る寂け  
つちも歌ひこたしてゐる處  
を、破りて泥かん風の  
ごとくなか(いづれも  
詩南車廿九輯)

## 折華微笑

よし間でも無き  
超現實暴露の悲爲に日光街道へ出たが、其  
縣下は一は定員や  
有権者丈けと思  
つたら無効投票  
見物もあつた  
今年から平町一  
ヶ所、南町の女  
引續きの雨で幾  
赤い舌をべろり  
コナンションが  
知つてゐるんで吃と細かく道へ廻つたさうです  
尋ねて突止めて来るんで  
「ナニ日光街道、ハチナ  
酒が廻つて来ると佐太郎  
は氣附いたやうに  
「親分、忙しうに言ひな  
るから、ツイ譯も聞かす  
にわやしたが、全体何うい  
ふ譯で大平山の容子を聞き  
なされるんです、マア譯を  
かしてお呉んなねえ」  
玉五郎も今は隠すに由な  
く搔搔んで話さうかと思つ  
たが、

「親分、忙しうに言ひな  
るから、ツイ譯も聞かす  
にわやしたが、全体何うい  
ふ譯で大平山の容子を聞き  
なされるんです、マア譯を  
かしてお呉んなねえ」  
玉五郎も今は隠すに由な  
く搔搔んで話さうかと思つ  
たが、

「親分、忙しうに言ひな  
るから、ツイ譯も聞かす  
にわやしたが、全体何うい  
ふ譯で大平山の容子を聞き  
なされるんです、マア譯を  
かしてお呉んなねえ」  
玉五郎も今は隠すに由な  
く搔搔んで話さうかと思つ  
たが、

「親分、忙しうに言ひな  
るから、ツイ譯も聞かす  
にわやしたが、全体何うい  
ふ譯で大平山の容子を聞き  
なされるんです、マア譯を  
かしてお呉んなねえ」  
玉五郎も今は隠すに由な  
く搔搔んで話さうかと思つ  
たが、

「親分、忙しうに言ひな  
るから、ツイ譯も聞かす  
にわやしたが、全体何うい  
ふ譯で大平山の容子を聞き  
なされるんです、マア譯を  
かしてお呉んなねえ」  
玉五郎も今は隠すに由な  
く搔搔んで話さうかと思つ  
たが、

「親分、忙しうに言ひな  
るから、ツイ譯も聞かす  
にわやしたが、全体何うい  
ふ譯で大平山の容子を聞き  
なされるんです、マア譯を  
かしてお呉んなねえ」  
玉五郎も今は隠すに由な  
く搔搔んで話さうかと思つ  
たが、

「親分、忙しうに言ひな  
るから、ツイ譯も聞かす  
にわやしたが、全体何うい  
ふ譯で大平山の容子を聞き  
なされるんです、マア譯を  
かしてお呉んなねえ」  
玉五郎も今は隠すに由な  
く搔搔んで話さうかと思つ  
たが、

## 社会の今日

元

子孫の前のめりして技  
を傳し  
雨蛙雨に重たきハツ手  
の葉  
草  
菜



「親分、忙しうに言ひな  
るから、ツイ譯も聞かす  
にわやしたが、全体何うい  
ふ譯で大平山の容子を聞き  
なされるんです、マア譯を  
かしてお呉んなねえ」  
玉五郎も今は隠すに由な  
く搔搔んで話さうかと思つ  
たが、

### 泌尿外科

醫學士内木宗八  
平町新川町十九番地  
電話一六四番

### 小兒科・内科

特二乳幼児ノ健康相談ニ應ズ。  
平町。ねずみ坂  
電話一六一番

### 關彰商店平支店

本店水戸線下館驛前  
電話六二二番

### 生花教授

池ノ坊流 生花を懇切丁寧に御教授いたし  
ます。お遊びがてら御出下さい。  
平町四丁目和泉旅館

### 新茶賣出し

皆様お待兼ねの新茶が根本園  
へまいりました。

### 根本園茶舗

平町四丁目  
電話二七(呼出)

### 高久病院

平町四丁目(電話五三二番)

### 耳鼻科専門

平町田町七〇番地  
山内醫院  
醫學士山内亨吉  
電話六九一番

### 社員採用

小學卒業以上十九才以上二十才位、會  
社住み込み集金其他勤務、市外の者に限  
る。但し保證人を要す。

### 生徒募集

私服、婦人小供服、刺繡、洋裁一般  
普通科、刺繡科、高等科各二ヶ月  
平町田町大通り  
シンガミシン  
販賣教授所

### 本日より!

うなぎ井始めました  
金三十錢  
金二十五錢  
金二十錢

### 川松うなぎ食堂

電話(呼)四六七番

### 月掛提供

六月十日は時の記念日  
記念賣出しとして期間  
中一割引奉仕いたします。  
期間 六月十日ヨリ  
六月二十日マデ  
置時計の特價品豊富入荷

### 謝近火御見舞

謹啓昨夜近火の際は早速御馳付御見  
舞を賜り且つ消火に御盡力被成下御  
蔭様を以て鎮火致し候段有難御厚禮  
申上候一々拜趨御禮可申上候の處混  
雑中御尊名伺ひ洩れも可之有候間乍  
略儀紙上を以て御禮申上候 敬具  
昭和八年六月九日  
株式  
丸ほん商店  
丸ほん家具製作所

### 失火御見舞御禮

六日の夜拙宅家族居宅の火災に際し  
ては早速御馳付消火に御盡力被成下  
且亦深甚なる御同情の御見舞下され  
候段誠に有難く奉深謝候一々拜趨御  
禮申上候べき筈の處混雑中御尊名御  
伺ひ洩れも有之可く略儀ながら紙上  
を以て御禮申上候  
尚家族一同無事目下立町荒川浅次郎宅に避難致  
し居り候間御安心被下度候  
平町六丁目  
丹野英治

### 木炭代用の上のな

經濟の徳用 豆炭  
壹袋正五貫目入 金八十錢也  
御注文次第御届申シマス。

### 丹野英治

一丁目(電話五九六番)  
菅本武夫商店  
白銀町(電話二九九番)  
水野氷店

### 阿部石炭商店

平町前(電話三七番)

### 阿部石炭商店

平町前(電話三七番)

### 阿部石炭商店

平町前(電話三七番)

### 阿部石炭商店

平町前(電話三七番)

